

彩の合気

編集発行
埼玉県合気道連盟

埼玉県合気道連盟機関誌NO. 22

「連盟創立25周年記念講習会に参加して」

埼玉県合気道連盟事務局
萩原勇一郎(浦和合気会)

埼玉県合気道連盟は、合気道を通じ、加盟団体相互の親睦を図り開祖の教えを守り、生命の尊さと人間性の尊厳を知り、健全なる精神と肉体を養い、合気道の普及・発展、郷土の興隆に寄与することを目的として創立され、以来25年が経過しようとしております。

この間、合気道の普及・発展、郷土の興隆の一助となるよう少年錬成会や合同講習会を毎年定期的で開催しているほか、加盟団体も4月から2団体増え26団体となるなど、着実に活動範囲を拡大しております。

これらの活動を行うに際しては、加盟団体の責任者の方々、さらには道主をはじめとする(財)合気会本部及び本部道場指導部各師範の皆様方には、格別の御支援、御協力を賜りましたことをこの場を借りて心より感謝申し上げますとともに、今後とも、これまでも増して当連盟に対する御支援、御協力をお願い申し上げます。

一口に25年と申しましても四半世紀。人生に例えるなら、この世に生を受け幼少期から青年期を経て成人し、これから一人前の社会人として社会に貢献する時期にあたります。このように見ますと当連盟も、ようやく青年期から成人し、これから県下に益々合気道の輪を広げ、さらに発展させることにより社会に貢献することが求められているのではないのでしょうか。

さて、このような特筆すべき年に、当連盟の恒例行事である合同講習会が「埼玉県合気道連盟創立25周年記念合同講習会」として、去る7月8日(日)にさいたま市見沼区の「さいたま市大宮武道館」において、来賓としてさいたま市合気道連盟の武正公一会長を迎え(代理出席)、本部道場指

導部師範大沢勇人先生の指導のもと、連盟加盟23団体、その他3団体から338名という多数の参加者により開催されました。

当日は、梅雨の真っ只中にもかかわらず幸いにも好天に恵まれ、さらに多数の参加者の熱気もあって武道館内は少々蒸し暑く感じられましたが、緊張感と期待感が交錯するなか講習会がスタートしました。

講習会は四方投げや第一教などの技を中心に、入り身、転換などの際の基本的な身体の使い方、さらに第二教の手首の固め方などを、具体的になおかつ理解し易いように丁寧に説明していただきながら進行されていきました。その為もあってか、参加者の表情が和気あいあいとした雰囲気から、いつのまにか真剣そのものへと変わってゆくのが印象的でした。



大沢師範は体格としては決して大柄ではありませんが、その分、体の動きは俊敏であり、一つ一つの動作に無駄がなく、それぞれの技にキレがあるのを素人目にもはっきりと確認することができました。また、今回に限らず、講習会に参加するたびに感ずることは、指導者により四方投げや第一

教など技の最終的な形は同じであっても、その途中経過にはかなりの相違点があることです。普段の道場における指導者からの稽古とは違った視点から指導を受けることにより、合気道という武道の奥深さを再認識することができ、有意義な一日

となりました。これからも、このような機会があれば積極的に参加し、他の道場のみなさんとの稽古を通じて、個々の技の質をより高められるよう努力を続けて行きたいと思えます。

創立 25 周年記念埼玉県合気道連盟講習会

大宮道場 藤田潤一

去る7月8日(日)、埼玉県合気道連盟の創立25周年を記念した合同講習会が大宮武道館の主道場でおこなわれ、県下の25団体、338名が参加して盛大に行われた。

毎年行われている連盟主催の合同講習会であるが、今年は25周年を迎え、道主・植芝守央先生にお出でいただけるということで、皆、



心待ちしていたが、直前に足を痛められ、大事をとって、道主が大澤勇人師範に代理指導を指示され、大澤師範が小山指導員と共に来てくださることとなった。大澤師範には大宮道場そして兄弟道場でもある久喜合気道同好会にも来ていただいたことがあるので、私にとっては前回ご指導いただいたことに関しての理解が深まり、また大宮関係の会員にも大

変良い機会となった。

講習は片手取りの転換から始まり、姿勢の大切さを教わり、横面打ちでは足さばき、半身の立ち方と肩の入り具合、そして正面打ち一教から四教まで解りやすく丁寧にご指導をいただき、普段の稽古で疑問に思っていた事や気が付いていなかった大切な事なども認識し理解する事できた。講習後のロッカールームでは他道場の有段者の方の今日は基本技の大切なところを色々教えていただき良い稽古になったとの感想を聞き同じ思いであった。

直会は大宮の清水園で行われ126名の参加を得て主管道場である石垣道場の石垣師範の乾杯の音頭で開宴、賑やかで楽しい懇親の場となり1年ぶりで会う道友とも話しの弾む楽しいひと時となった。

かなり座も賑わってきた頃、恒例である道場紹介がそれぞれの道場の代表者によっておこなわれたが、人数が多くかなりざわついている中、大澤師範は膝に手をおき全ての道場紹介ににこやかに、しっかりと耳を傾けられていたのが印象的であり、さまざまな事を師範の自然体のなかから教えていただいた貴重な一日となった。

県連合同講習会に参加して思う

合気道自然館館長 吾妻正義

去る7月8日(日)、本部道場から大沢勇人先生をお招きし、県連合同講習会が行われました。一人の怪我人もなく、県連傘下の皆様と共に、最後まで真剣にかつ楽しく稽古に汗を流し、とても有意義なひと時を過ごすことができました。これも偏に大沢先生の熱心なご指導と、事務局である浦和合気会の林会長を始め、会員の皆様のご尽力の賜と衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて、講習会で大沢先生は、初心者にも理解できるようにと、一つ一つの技を懇切ご丁寧に説明されました。口頃私達があまり気に掛けず行っている半身の作り方や正面打ちの打ち方等も、微に入り細にわたり指導されました。普段道場で行う稽古とは異なる動作、説明に触れ、新鮮さを感じながらもいろいろと勉強させて頂きました。

私が特に敬服しましたのは、懇親会での大沢先生の立ち居振る舞いです。支部紹介等で話をする人がいれば、その都度ご自分で椅子の向きを変えられ、姿勢を正し、話し手の顔を見て静かに話を聞かれています。私達が幼い頃から教えられてきた基本的な所作なわけですが、最近では子供達ばかりでなく、私達大人もなかなか人の話が聞けなくなっているのが現状です。先生のこうしたお姿を拝見し、「指導者とはかくあるべき」と畳の外でも勉強させて頂きました。

私がご挨拶に伺った時も、先生は「何事も勉強だよ。」とおっしゃっていましたが、おそらく先生ご自信も、道場の中だけでなく懇親

会の場においても、私たちに範を垂れると同時に何かを学ぼうとされていたのではないかと思われました。

私達が毎日のように安心して楽しく稽古に汗を流すことができるのも、やはり本部道場が道主を中心として健在であるお陰かと思えます。今回の講習会に参加し思うことは、本部の先生のご指導となれば350名以上の道友が一堂に会し、一生懸命稽古に励む様子を拝見し、改めて合気道と県連の将来が安泰であることを確信したことです。これに感謝しつつ今後益々稽古に精進しようと気持ちを新たにしました次第です。



入門時を振り返って

蕨合気道 山田重郎



県連理事長林先生より原稿を依頼され、忘れていた24年前を振り返りました。その当時、少年野球の監督で、毎日のように子供達の練習を見ていました。しかし試合をしても中々勝てず、そんな時フツと蕨広報の「合気道募集」が目にとまり、運動靴を持って分からないまま入門したのです。

蕨合気道会の指導は、西尾師範がされていました。正座して見ていると分かったと思いきざ立ち上がると何がなんだかさっぱり、そんな時「山田さん、同じ稽古を何回もするから忘れていいよ」と笑顔で肩をたたかれました。スポーツの指導には、そうした優しい言葉はありません。でもあの一言がどんなに嬉しかったか。私が今日まで合気道を続けてこられた訳を尋ねられたら、即座に「忘れてもいい稽古の積み重ねだから」と答えます。その精心で指導するようになってからの少年野球は、優勝の連続でした。

西尾師範は開祖大先生の言われた言葉を稽古の度必ずお話しされていました。人を倒すのでなく育てる時代とか。

今回埼玉県合気道連盟25周年に合気道道主をお迎えしご指導の予定でいましたが足に

ケガをされ、急遽総務部長大沢師範のご指導に変わりました。大沢師範は武道館で拝見した事があります。350名の参加者にお一人で、丁寧かつ分かりやすく指導され、またお疲れの所祝賀会で各道場の近況報告を真剣な眼差しで聞いておられ、大沢師範のすばらしい一面をみて感銘を受けました。入門の出会い、今日のお会いこれからも人の出会いを楽しみに、そして県連の発展のため少しでもお役にたてれば幸いです。

埼玉県合気道連盟 行事予定

実施予定月	事業内容	備考
平成20年1月	埼玉連盟第1回常任理事会	
3月	埼玉連盟第2回常任理事会	
4月	第23回埼玉連盟少年錬成会	合気道大宮道場
5月	第47回全日本合気道演武大会	日本武道館
6月	第26回埼玉県合気道連盟総会	さいたま市民会館うらわ
7月	第26回埼玉連盟合同講習会	所沢市合気道連盟
	第30回少年合気道錬成大会	日本武道館